

学校 教育 目標	『大きくそでてかしわの木のように』 めあてに向かってねばり強く取り組む子 (知) 自分も友だちも大切にする子 (徳・体) みんなのために役立つとする子 (公) あいさつで始まるつながりを大切にする子 (開)				
	創立 103 周年	学校長 金子 博美	副校長 鈴木 博幸	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 4
学校 概要	児童生徒数: 423 人		主な関係校: 蒔田中学校、蒔田小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力	蒔田中学校 南太田小学校 蒔田小学校	目標を見つけ 学び続ける子ども ・発達段階に応じたキャリア教育を通じ、先の見通しをもって、自己実現を目指す子どもを育てます。 ・できる、分かる体験を通じ、自分に自信をもち、自他を高めていく子を育てます。 ・まちや人との関わりを通して、社会とつながり、地域を愛する子どもを育てます。

中期 取組 目標	<p>子ども一人一人を大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかる喜びやできる喜びを味わえる授業づくりを推進し、自分の思いや考えを自信を持って表現できる子どもを育成します。 ・お互いを認め合い、高め合いながら、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣を形成するとともに、安全を考えた判断と行動ができるようにします。 ・地域の人や自然・文化とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	ICT支援員と連携して、GIGAスクール構想を活用した新学習指導要領に基づいた分かりやすい授業を行うとともに、子どもの実態に応じた指導により、基礎基本の定着を図る。算数を重点研究とし、基礎基本の学力の定着と、自ら学びに向かい、自他の考えを活用しながら課題に対して粘り強く取り組む子の育成を図る。
徳 人権教育	各教科の学習を通して、人権意識の育成を図る。人権タイムで各学年の取組を紹介し、人を思いやる気持ちの啓発をする。たてわり活動等を計画し、発達段階に応じた人権感覚を身に付けられるようにする。人権週間では、児童支援部会との連携を図り児童の実態を捉えた上で、取り組むべき内容を企画・運営し、人権的な視野を広げるようにする。
体 健康教育	校庭を活用し、遊びを通じた体力づくりを推進する。ICTや体育読本等を活用し体力を向上させる方法を各学年で実施する。運動委員会が中心となり全校児童を対象に体力向上に努める企画を実施していく。保健委員会や学校保健委員会を中心に、けがの防止や健康に過ごすための実践意欲を養っていく。
公開 自分づくり教育 (キャリア教育)	地域や中学校・高等学校から体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。「自分づくりパスポート」を活用し、自分のめあてに即した学習状況や生活状況を振り返り、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
いじめへの対応	児童支援委員会を中心に児童の様子等を職員間で共有し、特性や児童間の関係性の理解を図る。YPアセスメントや研修等を行うことで、児童の見取りを深める。「いじめ防止対策委員会」にて、いじめの未然防止、早期発見、解消を目指す。研修等を実施し、職員の意識を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	チームマネージャーを置き、3年以上の教科担任制も活用して、児童理解および指導力の向上や業務軽減を図る。メンターチームを組織し、他教員による指導も取り入れながら、学級経営や児童指導、学習指導の向上を図る。年間を見通した校務組織の計画・運営を行い、働き方改革につなげる。
特別支援教育	専任や養護教諭を中心に不登校支援に取り組む。コーディネーターを中心にSCや関連機関と連携し、保護者や児童の支援にあたり、課題の改善を図る。「国際教室」や「かしわ教室」を活用し、様々な児童のニーズに対応した学習支援を行い、学力向上につなげる。
児童指導	「学校のきまり」について児童の実態をもとに検討して全教職員の共通理解を図る。指導の根拠となるよう改善する。「YPアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。不登校児童の家庭へ継続的に連絡をし、学習支援の在り方を探り、学びが継続できるようにする。
地域連携	学校地域共同事業本部を活用し、授業や校外学習、環境整備などの形で保護者ボランティアや学校・地域コーディネーターの協力を得ながら、より広く教育活動の充実を図る。幼保、中、及び高校との交流・連携を行うことで成長の見通しをもてるようにする。
担当	c10